

薩摩硫黄島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

< 噴火警戒レベル 2 (火口周辺規制) が継続 >

薩摩硫黄島の硫黄岳で、昨日 (2 日) 17 時 35 分に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上 1,000 m をわずかに超える程度まで上がりました。この噴火に伴い、噴火警戒レベルを 2 に引き上げました。その後、噴火は発生していません。

本日 (3 日)、第十管区海上保安本部の協力により実施した気象庁機動調査班 (JMA-MOT) の上空からの観測では、硫黄岳山頂火口から白色の噴煙が火口縁上約 300m 上がるのを確認しました。

【防災上の警戒事項等】

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

活動概況

・噴煙など表面現象の状況 (図 1 ~ 5)

硫黄岳山頂火口で、2 日 17 時 35 分に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上 1,000m をわずかに超える程度まで上がりました。

本日、第十管区海上保安本部の協力により気象庁機動調査班 (JMA-MOT) の上空からの観測を実施しました。硫黄岳山頂火口から白色の噴煙が火口縁上約 300m 上がるのを確認しました。赤外熱映像装置による観測では、硫黄岳及びその周辺の地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。また、周辺に火山灰などの噴火の明瞭な痕跡は認められませんでした。

硫黄岳周辺の海岸付近では、火山活動に伴うと考えられる海水の変色が引き続き確認されました。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び三島村のデータも利用して作成しています。



図 1 薩摩硫黄島 硫黄岳山頂火口及び周辺の状況

硫黄岳山頂火口から白色の噴煙が火口縁上約 300m 上がるのを確認しました。硫黄岳周辺の海岸付近では、火山活動に伴うと考えられる海水の変色が引き続き確認されました。



図2 薩摩硫黄島 硫黄岳東側の状況

硫黄岳東側（赤破線）及び東側山腹（白破線）の一部からは、白色の噴気が引き続き認められましたが、地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。



図3 薩摩硫黄島 硫黄岳南西側の状況

硫黄岳の南から西側山腹の一部（赤破線）からは、白色の噴気が引き続き認められましたが、地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。



図4 薩摩硫黄島 硫黄岳北側の状況

硫黄岳の北側山腹の一部（赤破線）からは、白色の噴気が引き続き認められましたが、地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。



図5 図1～4の観測位置及び撮影方向